

風を起こす

書評ブログが広げた
人と人とのネットワーク

千葉県総合企画部政策推進室副主査

戸崎 将宏さん

二〇〇五年一月から丸三年以上、休むことなく毎日一冊の書評をブログに掲載している戸崎将宏さんにお会いした。行政経営を勉強するため論文や本を読むうちに、後から検索できるようにキーワードで書評をまとめたのが最初。いまではブログを通じて人のネットワークも広がり、仕事にもプラスとなっているそうだが、ブログを始めたきっかけとは何だったのだろうか？

いまは誰でも「簡単」にブログを始められることができる。インターネット上には無料で利用できるブログサービスが数多く提供されており、電子メールが使える程度のITスキルがあれば、ブログ開設も「簡単」だ。

ただ、ブログも毎日、休まず更新するととなると、途端に「簡単」とは言い難くなる。しかも、本を読んで一日一冊、その内容を紹介するブログと聞けば、思わず「仕事もせずに、読書三昧

の生活を送っているのだろうか？」と失礼なことを想像してしまう。戸崎さんのブログを見た人なら、誰もがそんな疑問を持つに違いない。

ブログのタイトルは「戸崎将宏の行政経営百夜百冊」。その内容は、例えば今年一月一日に更新された記事では「二本道とネットワーク―地図の文化史・方法叙説(ことはじめ)」を取り上げている。書籍のタイトルの横には「#1076」の数字。ブログで取り上げてき



【ときまさひろ】

昭和45年(1970年)生まれ、千葉県富津市出身。大学卒業後、1年間の就職浪人を経て平成6年('94年)千葉県庁に入庁。君津支庁総務課を振り出しに、商工労働部職業能力開発課、選挙管理委員会事務局、総務部総務課を経て、平成19年('07年)より総合企画部政策推進室で地域づくりを担当。その一方、女性の能力発揮勉強会の事務局を務め、ワーク・ライフバランスの講演会も企画した。プライベートでは、行政経営フォーラム、NPO 地方自立政策研究会、NPO 法人南房総IT推進協議会、日米ソーシャル・イノベーション・フォーラム等に積極的に参加。奥さんと子ども2人の4人家族。



付箋を張りながら速読していく

た本の累計冊数だ。「書籍情報」として書籍の表紙写真、「堀淳二」作者名、「価格・¥3980」本の値段、「作品社(1997/09)」出版社名と出版年月がある。本の要約が約四〇〇〇字、原稿用紙一〇枚というボリュームで紹介されている。

その後で「個人的な視点から」「どんな人にオススメ?」「関連しそうな本」の共通見出しで、戸崎さんの感想や参考文献となりそうな本を紹介するという構成だ。最後にオマケ(?)情報として「百夜百音」や「百夜百マンガ」の見出しで戸崎さんが興味を持った音楽やマンガの紹介コーナーがあり、実に見事な「戸崎ワールド」が展開されている。

戸崎さんの書評ブログ <http://www.pm-forum.org/100satsu/>

戸崎流の速読術で新書一冊を 二〇分で読破

「一冊の本は三回、読みます。新書ぐらいの本なら、二〇分で一回目を読み、二回目が一〇分。三回目で一〇〇〇字から一五〇〇〇字の要約をまとめるのに三〇〜四〇分ぐらいかかりますね」

まずは戸崎流の速読術から披露していただく。読書のときの必需品は、一〇〇円ショップで購入する幅が五ミリ程度の付箋紙。本は最初にはしきとあとがきを読んで、概要を把握する。続いて目次を見て、全体の構成を理解したうえで、一回目の本文を読み始めるのだが、読むのは段落の最初の部分のみ。重要な部分の段落には、付箋紙を張り、内容は面白くても枝葉部分と思われる段落はほとんど読み飛ばしていく。付箋紙は、本の端からちよつとだけはみ出すように張る。

二回目の本読みでは、付箋紙を張った段落をつなげてみて、全体の論旨が正しく伝わるかどうかを確認する。このとき、とくに重要と思われる段落の付箋紙は本の端から長くはみ出すように張り直していくのが戸崎流のテクニク。三回目の要約まとめのときには、長い付箋紙の段落をつなげていくだけで、ブログ用の「書籍情報」記事がまとまる仕掛けである。

「一回目の本読みは、朝の通勤電車の中で始めることが多いですね。自宅から千葉県庁までは二〇分で、電車に乗っているのは一〇分程度ですが…」

通勤電車からスタートし、スポーツジムでエアロバイクを漕いでいる時間などを見つけて二回目の本読み。「東京に出張などがあると、電車の中で三冊ぐらい本が読めます」と、せっせと片付けていく。そして、三回目の要約まとめは、朝四時、五時に起きて自宅で行っている。

「まだ、子供が小さいので、夜に寝かしつけていると、自分も一緒に寝てしまうんですよ。その分、どうしても朝早く目が覚める。この時間を有効に活用しようとブログを始めることにしました」

それでも分厚い専門書になると要約まとめだけで、二時間以上かかる作業は大変だと思うのだが、「朝に本の要約まとめをするのは、頭脳のウォーミングアップになって、午前中の仕事の効率アップにもなりますよ。仕事で会議の議事録をまとめるのにも役に立っています」と、負担になっている素振りには全く見せない。

NPMとの出会いを機に母校の 大学院へと進学

戸崎さんは、房総半島の南部に位置



いつでも文字入力ができるよう小型パソコンを持ち歩いている

する千葉県富津市の生まれ。地元の高校を出て、千葉大学法経学部を卒業した頃は、ちょうどバブル経済が崩壊した直後の就職難の時代だった。

「就職活動では地元の銀行にも話を聞きに行きました。しかし、地元のために大きなプロジェクトに関われるような仕事をしたいと考え、公務員を目指すことにしました」

一年の就職浪人を経て、公務員試験に合格し、平成六年に千葉県庁に採用となった。最初に配属されたのが君津支庁。ここで過ごした四年間は、戸崎さんにとって貴重な体験だったようだ。ちょうど平成九年に県知事選挙が行われ、選挙管理委員会で選挙広報の仕事に携わったときに、県民に選挙に対する関心を少しでも高めてもらおうとある秘策を思いつく。

「大学時代に音楽バンド活動をやっていた経験を生かし、選挙のキャンペーンソングをつくることを提案しました」
選挙キャンペーンソングを自ら作詞作曲、さらに演奏までしてデモ（試聴用）テープを作成。それを千葉県庁に持ち込んでプレゼンテーションを行い、見事に採用されたのである。県庁職員がつくったキャンペーンソングは新聞にも取り上げられ、「やればできる」

との達成感を得ることができた。
同じ時期に、行政評価手法の研究な

どで有名な慶應義塾大学の上山信一教授に出会ったことも、戸崎さんに大きな影響を与えることになった。

「自分が行った仕事をどう評価すればよいのか？ を考えるきっかけになりましたね。それから独自に行政評価に関する勉強を始めました」

平成一〇年に本庁の職業能力開発課に配属となった戸崎さんは、高等技術専門校の備品調達担当の仕事しながら、「ひとりを就職させるのに、いくら費用をかけているのか？」といった企業経営的な視点で、行政のあり方を考えるようになっていた。同じ時期、上山慶大教授を中心に行政経営の改革を進めようとする人たちが集まって「行政経営フォーラム」が設立され、NPM（ニュー・パブリック・マネージメント）に対する社会的な関心も高まっていた。

「NPMを本格的に研究してみたい」
—そう思い立った戸崎さんは、県庁の職員研修制度を活用して平成一二年に母校の千葉大の大学院へ進学した。

大学院では読書と人のネットワークづくりに熱中

人間誰しも目標が明確になっていると、真剣に勉強するものではある。戸



家に帰れば子育てや家事も主体的にこなすという戸崎さん

崎さんも、音楽バンド活動に熱中した学生時代とは別人（？）のように勉強をスタートした。当時はインターネットの常時接続ブロードバンドサービスが始まる直前で、戸崎さんも自宅ではダイアルアップ回線でインターネットを使っていた。

「大学の研究室であればインターネットも使い放題ですからね。朝六時から夜八時まで、土日も関係なく、研究室にこもって、行政経営に関する論文や本を読み漁っていました」

英文を含む大量の研究論文を延々と読み続けるなかで、独自の本読みスタイルを編み出していった。本を読むときに、よく重要な箇所に線を引いたりして読む人は多い。しかし、後からもう一度読もうとしても、どの本のどの場所だったのか判らなくなることもしば



図書館で借りるだけでは事足りず、あふれてしまった自宅の蔵書

しばだ。そこで論文の重要なキーワードをパソコンにテキストファイルで入力し、フォルダに整理しておくことを思いついた。

「ヒントは、インターネットのキーワード検索でした。パソコンにテキストファイルとして保存しておけば、後から簡単にキーワード検索できますからね」

これが、現在の書評ブログの要約づくりへと発展してきたわけだ。いままでは戸崎さんのブログを見て本選びの参考になっている人も多いだろうが、もとは自分のためのキーワード索引づくりが出发点だった。

大学院時代には、戸崎さんにもうひとつ大きな変化が生じた。人と人のネットワークづくりの楽しさに目覚めたことである。きっかけは、以前から気になっていた行政経営フォーラムに会員として参加したことだった。

「それまでは知らない人と会って話しながら、自分の性格ではとてもできないと思っていました。しかし、実際に参加してみると、人に会うのが楽しくて、人のネットワークづくりが好きになつていました」

地方公務員同士は、それぞれの地域で仕事をしているため、同じ課題や悩みを抱えていても知り合って親しくなる機会は限られていた。それが、インターネットの登場で横の連携がしやす

くなったのは確かだろう。普段はオンライン上で交流し、直接集まる「オフ会（オフラインミーティングの略）」で親しくなる。そんな人と人のネットワークが戸崎さんの仕事と生活を充実させることになった。

書評した本は三年で二千冊を突破—ブログが生活の一部に

戸崎さんが「行政経営百夜百冊」を始める直接のきっかけは、行政経営フォーラムの企画委員になって、行政経営に関する知識を共有できるようなブログの立ち上げを思いついたことだ。ブログのタイトルは、雑誌編集者・松岡正剛氏の書評ブログ「千夜千冊」から拝借した。当初はとても千夜千冊は無理だと思つて控えめに百夜百冊としたが、丸三年続いて千冊を超えてしまった。

二〇〇一年に大学の後輩である奥さんと結婚し、〇三年に長女、〇四年に次女が誕生して早起きするようになった早朝時間の活用術は、松山真之助氏の著書『早朝起業—「朝五時から九時まで」の黄金時間を自分のために使う方法』で学んだ。松山氏も、大手航空関連会社に勤めながら書評ブログ「Webbook of the day (WebとBookの合成語)」を書き続けている。

戸崎さんの毎日一冊の書評ブログは

いつまで続いていくのだろうか？ ブログ更新を仕事の延長線と考えて続けてきたのなら、三年も続かなかつたように思う。ブログの更新作業がある朝も、朝食をつくるのは戸崎さんの役目である。七時には奥さんとお子さんを起こし、ご飯、味噌汁、おかずの朝食をつくって食べ、合間に自分の昼弁当もつくる手際よきだ。

「娘のお弁当は見た目が重要なので、女房につくってもらっています。土日は手づくりでピザを焼いたり、たこ焼きをつくったり、ほとんど私がつくっています」

ブログが戸崎さんにとって生活の一部になっているのは間違いない。「大切なのは仕事とプライベートのバランス。相乗効果が発揮できるような働き方をしたいですね」—別にプレッシャーをかけるつもりはないが、まだ自分は毎日一冊の書評ブログが続くことになりそうである。



千葉 利宏

【ちば・としひろ】昭和33年（1958年）生まれ。札幌市出身。東京理科大学建築学科卒、日本工業新聞社（フジサンケイ・ビジネスアイ）入社。経済記者としてIT産業、金融業、自動車産業、住宅・不動産業などを取材。平成13年（2001年）からフリーで経済ジャーナリストとして活動。日本不動産ジャーナリスト会議幹事。